様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成 22 年 4 月 21 日現在

研究種目：基盤研究（C）
研究期間：平成１９年度　～　平成２０年度
課題番号：１９５２０６６４
研究課題名（和文）
アナトリア前期鉄器時代文化編年の確立
研究課題名（英文）
Establishment of the Framework of Anatolian Early Iron Age Chronology
研究代表者
松村　公仁（MATSUMURA KIMIYOSHI）
中近東文化センター・アナトリア考古学研究所・研究員
研究者番号：60370194

研究成果の概要
アナトリア前期鉄器時代研究とは紀元前　　世紀　のヒッタイト帝国崩壊後、いわゆる「暗　時代」と呼ばれる時代の研究である。この「暗　時代」の文化層をこれまで 20 年以上に渡ってカマン・カレホユック遺跡において研究してきたが、文献上、もう一つの暗　時代文化が存在していたことで知られているのがトルコ南東部に位置するカルケミシュ遺跡である。この研究ではこのもう一つの暗　時代文化研究の第一段　としてかつてのカルケミシュ遺跡調査のデータ収　と遺跡の現状把握に努めた。

研究成果の概要　英和
Anatolian Early Iron Age is so-called “dark age” that is the age after the collapse of the Hittite Empire (ca. 1200 BC). The research on the “dark age” was done at Kaman-Kalehöyük over twenty years. One another “dark age” culture is known at Carchemish from texts. This research is the first step for the understanding of one another “dark age” culture at Carchemish and data of the former researches were collected and the actual condition of the site was evaluated.

交付決定

金　単位　円

	直接経費	間接経費	合　計
平成 19 年度	1,700,000	510,000	2,210,000
平成 20 年度	1,700,000	510,000	2,210,000
年度			
年度			
年度			
総　計		,　　,	

研究分野　　人文学
科研費の分科・細目　　考古学
キーワード　考古学　アナトリア　鉄器時代　暗　時代　カルケミシュ

研究開始当初の背景

1)　1985 年に始まる財団法人中近東文化センター附属アナトリア考古学研究所によるトルコ共和国、カマン・カレホユック遺跡の考古学的調査(　長:大村幸弘)では、中央アナトリアにおける文化編年の確立を通して、様々な文化の様相が明らかとなってきている。そこでは紀元前 3 千年紀の前期　銅器時代に始まって、アッシリア植民地時代に代表されるメソポタミアとの交易システム、それに続くヒッタイト帝国の成立から崩壊に至る過程、さらにはヒッタイト帝国崩壊後の鉄器時代、そしてヘレニズム時代へと続く文化が確認されている。このカマン・カレホユック遺跡における 20 年を超える調査を通して様々な問　が浮かび上がってきている。その中でも特に前 2 千年紀末、ヒッタイト帝国の崩壊は「海の民」の移動に起因すると推測されながらも依然としてその原因が特定されていない。帝国崩壊後の世界に関しては、カマン・カレホユック遺跡 IId 層の調査が契機となって中央アナトリアにおけるいわゆる「暗　時代」の研究が急速に進展してきた。カマンに続いてゴルディオン遺跡 YHSS 8 層、ボアズキョイ遺跡 Büyükkaya における考古学的調査研究でも「暗　時代」が徐々に解明されつつある。

2)　一方で文字資料の研究においても、少なくとも二つの都市がヒッタイト帝国崩壊後に存続していたことが、最近の研究によって明らかになってきた(Hawkins 2002)。その一つが中央アナトリア南部に位置すると推定されていながら、未だ同定されていない都市タルフンタッサ(Tarhuntassa)であり、もう 一つがトルコ南東部に位置するカルケミシュである。カルケミシュにおいては、ヒッタイト帝国崩壊後の「暗　時代」に、ヒッ タイトの王系が断絶することなく存続していたことがリダーホユック遺跡(Liddar höyük)出土の印影 などから明らかとなってきた。

研究の目的

この暗　時代の二つの勢力のうちの一方である中央アナトリア南部は、20 年以上に渡るこれまでの研究の結果、カマン・カレホユック遺跡 IId 層と関連性を持つことが分かってきている。これに対して南東アナトリア、カルケミシュ遺跡は　　世紀初　に発掘調査が行われた後、シリア国境に位置するため地　が埋設され、これまで調査不能であった。今後アナトリアの「暗　時代」、またそれに先立つヒッタイト帝国の崩壊の過程を理解する上では、ヒッタイト帝国崩壊後も存続した遺跡においての変遷過程をも把握する必要がある。カルケミシュ遺跡はその存続が唯一文献で裏付けられた遺跡である。この研究はカルケミシュにおける前期鉄器時代、つまり暗　時代文化の研究に向けて、かつて行われたカルケミシュ遺跡の発掘調査に関するデータを収　し、遺跡の現状を把握することを目的とした。

研究の方法

本研究はカルケミシュ遺跡における長期的調査研究のための予備調査である。カルケミシュ遺跡における調査研究計画は以下の 3 段　に区分することが出来る。

1. 過去の発掘調査の成果を整理、再評価し、研究の現状、問　点を抽出する
2. 発掘調査に先立つ予備調査(地形測量、地中探査、キャンプの整備)
3. 発掘調査

このうち本研究では第 1 段　の課　である過去の発掘調査の成果を整理、分析、再評価することに努め、将来の調査方法を明確にする。

1) 博物　所蔵カルケミシュ遺跡出土遺物の確認

特に大英博物　によって行われた発掘の資料は二つの戦争によって、散逸してしまっているが、多くがアンカラのアナトリア文明博物　、イスタンブールの考古学博物　、そしてイギリス大英博物　に所蔵されている。それらの詳細なリストが存在しないことから、それぞれの博物　において所蔵品の確認調査を行い、散在している遺物の所在を確認する。

2) カルケミシュ遺跡の現地視察

カルケミシュでは既に 1878 年から 4 年間にわたってイギリスのアレッポ　事 P. Henderson によって発掘が開始され、その後 1911 年から大英博物　により再開されたが、1914 年に第一次世界大戦勃発後、中止を余儀なくされた。1920 年には再び発掘を開始するもトルコ独立戦争によって中断されたうえに、カルケミシュがシリアとの国境線上に位置することになり、それ以来トルコ軍　の屯地と利用され、遺跡全体に地　が埋められたため、調査を行うことが不可能のまま現在に至っている。本研究では遺跡を訪れ、現状を把握することに努め、さらに地　除去の可能性、方法を探る。

3) カルケミシュ遺跡周辺地域の一般調査

現状ではカルケミシュ遺跡自体においての調査は地　除去後でないと不可能なため、その周辺地域の一般調査を行い、この地域の遺跡の分布、採取した土器資料の分析を通して将来的なカルケミシュ遺跡調査に備えることを目的とした。

研究成果

1)　博物　所蔵カルケミシュ遺跡出土遺物の確認

イスタンブール考古学博物　　イスタンブール　、アナトリア文明博物　　アンカラ　、イギリス大英博物　　ロンドン　においてかつてのカルケミシュ遺跡発掘調査のデータ、出土資料の所在について調査した。上記　博物　においてそれぞれに所蔵されているカルケミシュ遺跡出土遺物を、遺物カードをもとに確認した。大英博物　では発掘調査に関する発掘日誌、写真等も閲覧した。この他アダナ博物　、アンタキヤ博物　にカルケミシュ出土遺物が所蔵されているとの情報を得、調査申請したが、博物　からはカルケミシュ出土遺物は存在しないとの報告を受けた。

2)　カルケミシュ遺跡の現地視察

度にわたりカルケミシュ遺跡を訪れ、遺跡の現状把握に努めた。その　遺跡のあるガジアンテップ県県知事、郡長、町長、博物　長、軍関係者と　会し、遺跡の現状、地　除去の可能性等について話し合った。特に　度目の訪問では、日本より訪土した地　除去の専門家　山梨日立建機株式会社　と共に、地　除去の具体的な方法について現地の人たちを交えて話し合った。地　除去に　しては、人力による方法と地　除去機械を組み合わせることによって効率的な作業が行えることが分かった。ただし遺跡がシリアとの国境に接しており、現在軍の管轄下に置かれているため軍の許可を得なければならない。県、考古局から軍に対してその申請が行われたが、いまだ許可が下りていない。

3)　カルケミシュ遺跡周辺地域の一般調査

2008 年度、2009 年度に渡って一般調査の申請をトルコ共和国、考古局に申請したが、調査許可が下りなかったため、実施できなかった。一方でヒッタイト帝国の中心地に近い赤い河の沿岸に位置するヒッタイト帝国時代の都市ビュクリュカレにおいて 2008 年に予備調査を行い、2009 年に第一次発掘調査を開始した。この遺跡ではヒッタイト帝国時代の焼土層が確認され、ヒッタイト帝国崩壊から前期鉄器時代への変遷を解明出来る可能性がある。

4)　カマン・カレホユック遺跡の前期鉄器時

代　暗　時代　の研究成果

この調査に先立って研究を続けてきたカマン・カレホユック遺跡の前期鉄器時代、特にその編年的位置づけに関して考古学的層位分析に炭素年代測定結果を組み込むことにより、より正確な年代を引き出す方法を確立することを目的とした研究を行っている。そして、詳細な層序に基づいた発掘とその　、原位置で出土した炭化物の年代測定を組み合わせたウイグルマッチング手法によって、より誤差の小さい年代付けが可能になることを示すことが出来た。この成果はアナトリア前期鉄器時代編年構築の基礎となっていくものである。

主な発表論文等

研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線

〔学会発表〕　計 3 件

Kimiyoshi Matsumura, Takayuki Omori
"The Iron Age Chronology in Anatolia reconsidered: the results of the Excavations at Kaman-Kalehöyük"
6th International Congress on the Archaeology of the Ancient Near East (ICAANE 6)
5th to 10th May 2008 (9th May 2008 発表)、Rome, Italy.

大村　幸弘、松村　公仁
「ビュクリュカレにおける考古学的予備調査(2008 年 」
2008 年トルコ調査報告会、(財)中近東文化センター　2009 年 3 月 28 日 。

松村　公仁
「もう一つの暗　時代:カルケミシュ」
第　　回トルコ調査研究会、(財)中近東文化センター　2009 年 3 月 29 日 。

〔図書〕　計 2 件

Matsumura Kimiyoshi
2008 The Early Iron Age in Kaman-Kalehöyük - The search for its roots -. In Festschrift Prof. Hartmut Kühne, Berlin.

Matsumura Kimiyoshi, Takayuki Omori
(in print) "The Iron Age Chronology in Anatolia reconsidered: the results of the Excavations at Kaman-Kalehöyük," in P. Mattiae (ed.), 6th International Congress on the Archaeology of the Ancient Near East. Rome, Italy.

〔その他〕

ホームページ等
http://www.jiaa-kaman.org.

研究組織

(1)研究代表者

松村　公仁 (MATSUMURA, KIMIYOSHI)
中近東文化センター・アナトリア考古学研究所・研究員
研究者番号　60370194

(2)研究分担者

大村　幸弘　(OMURA, SACHIHIRO)
中近東文化センター・アナトリア考古学研究所・所長
研究者番号　10260142

大村　正子　(OMURA, MASAKO)
中近東文化センター・アナトリア考古学研究所・研究員
研究者番号　80370196